

0歳児



0歳児 人間らしい育ちのはじまり

発達の特徴

2ヶ月頃 原始反射から解放され、徐々に自分の意欲的な力で哺乳し始めます。快・不快を区別するようになったり、甘えるような泣き方でぐずったりしますが、あやし掛けると大人を目や口のあたりをよく見るようになります。見るより、聞く方が得意で、いつも声を掛けてくれる人の声を聞き分けるようになっていきます。

4ヶ月頃 昼夜の区別がつき、日中活動する主体として1日のリズムを自分のものにし始めます。体を起こしてもらうなど少し抵抗のある姿勢の方が生き生きする姿も見られます。自分からしっかり相手を見て、受け身から能動的な微笑みになります。次第に、自分から玩具や哺乳瓶に触りにいこうとする姿も見られるようになります。

8ヶ月頃 外の世界への興味・関心が出て、人見知りなど期待と不安が生まれ、人を見比べたり、2つの玩具に手を伸ばしたりし始めます。「大好きな大人」を支えに不安を乗り越え、期待をもって、いないいないばあ遊びや、くすぐり遊びを喜ぶようになっていきます。

10ヶ月頃 今まで主に受け身だった姿がどんどん能動的になってきます。目的に向かって体を移動させたり、段差など少し抵抗のあるところにもいってみたり、指先を使ってつまんだりもします。また、自分で食べたい、あっちへ行きたいなど指差して相手に要求を伝えようと、自分から人間関係を結んでくるとともに、大人の真似をして喜び、自分から得意なことをして大人の顔を見て、その達成感を共有しようとし始めます。

大切にしたい保育の課題

《乳児期前半》

- 姿勢を変えて見える世界を広げる、すっきり目覚めて遊び、快い空腹感を感じてからの授乳、離乳食など、目覚めている時の心地よさと活動への意欲を引き出す生活リズムの獲得が、人間らしい育ちの土台をつくります。
- 風の動きや光のざわめきを感じながらゆったりと過ごし、生活や自然を感じる事が大切です。
- ゆったりと目を合わせ、声を掛け、玩具に手指を伸ばして握ろうとする間を待つなど、人、ものへの関わりをたっぷり味わえるようにします。

《乳児期後半》

- 健康で人間らしい生活リズムをつくることは引き続き大切です。
- 移動の獲得においては自ら目標が沸き起こってくるような大人の関わりが大事です。（手を使って出し入れする遊び、“いないいないばあ”や“まてまて遊び”など、期待をもつ遊びをたっぷりとする。）
- 自分でしたいこと、したこと共感し、外界への意欲を膨らませるとともに、不測の事故が起こらないよう先を見通すことも必要です。
- 友達の存在が気になります。他児を感じやすい位置や距離を考えて「一緒にいることが快い」「自分もしたい」と意欲を高める関係が大切です。

《季節と関わって》

- 生まれた季節が子どもたちの発達や成長に与える影響も随分あります。冬生まれの赤ちゃんとは夏生まれの赤ちゃんとは移動し始める時期、つまり生後半年頃を夏に過ごすか冬に過ごすかで変わってきます。（ex：冬生まれの赤ちゃんは両手合わせや寝返りを獲得するのに時間が掛かるが、はいはいや伝い歩きは早く獲得する。夏の離乳食は進みにくいなど）
- 保育内容には季節を取り込み、その季節ならではの遊びを保障します。水遊び、お散歩など、自然を感じる保育を取り入れましょう。

「わくわく・のびのび・いきいき」育つために
—発達をふまえた関わり方—

大人とのゆったりとした関わりの中で
(4ヶ月頃)

大人にあやされると声を出して笑い、全身の動きや手の開きが活発になっていきます。仰向けでの姿勢で、音がする玩具やゆらゆらするものをじっと見たり、目で追いかけてたりします。4ヶ月を過ぎると次第に手も伸ばすようになるので、仰向けでの遊びをたっぷり保障しましょう。



目の前に新しい世界を
(8ヶ月頃)

乳児期後半は運動面での発達が著しいときです。8ヶ月頃には腹ばいでお腹をつけてぐるぐる回ったり、目の前にあるものに向かって進もうとしたりします。なかなかうまくいかず格闘しつつも、大好きな大人に支えられることで、意欲と欲求を育み自由な世界を切り開くことができます。乳児の目の前に新しい世界をつくり、乳児が自分から意欲を寄せていけるよう、一緒に楽しんでいく関わりをしましょう。



期待たっぷりの遊びを
(10ヶ月頃)

10ヶ月頃になると「もうすぐ〇〇だぞ」とわくわく、どきどきするなど、大人や外界への期待感が高まってきます。あやし遊びや触れ合い遊び、遊び歌を一緒に楽しむことで、人と関わることの心地よさと楽しさを感じられるようにしましょう。そのような関わりを通して、遊んでもらうだけでなく、自分から「ばあ」として見せたり、追い掛けてもらうことを期待したり、得意なことをして大人の顔を見たりするような姿が見られるようになっていきます。



0歳児で経験したい生活や遊び
(2か月～3か月)

心地よい感覚を大切に

【おむつを替えてもらおうと気持ちいいな】



おむつが濡れて泣いていましたが、おむつ交換をしてもらおうと気持ちよくなり、保育者が微笑み掛けると、安心してのように微笑み返してくれます。

【子どもの姿の読み取り】

お腹がすいたり、おむつが濡れて気持ち悪かったりすると泣くといった姿がみられるようになります。また、気持ちよくなり、保育者が働き掛けると、微笑み返すような姿も見られます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

不快を訴えるタイミングに適切に応えましょう。泣いて不快を表した後、心地よい感覚になることを学ぶ機会となります。また、おむつ替えで手足が自由になったときにマッサージをしたりして心地よさを感じられるようにしましょう。

【あっ 先生だ 嬉しい】



音の鳴る玩具を目の前で鳴らしてあやすと、玩具に興味をもってじっと見えます。そして、目を合わせあやすと嬉しそうに微笑みます。

【子どもの姿の読み取り】

原始的な反射の動きではなくなり、仰向けで目の前のものを動かすと目で追ったり、身近な大人の声を聞き分けたりするようになります。まだ見ているもののところに手を出してつかむことはできませんが手や足を活発に動かします。

【このコラムにおける 保育のポイント】

目が合った時に嬉しい気持ちが生まれます。ゆったりとした雰囲気の中で視線を合わせて優しく語り掛けたり、あやしたりと一対一で関わり、保育者に安心感をもてるようにし、笑顔が引き出せるようにしましょう。

0歳児で経験したい生活や遊び
(4か月～6か月)

気持ちよく飲み、眠り、遊べる環境を
～目覚めの時間を大切に～

【優しく抱いて飲ませてもらうと心地いいな】



お腹が空いてくると泣いて知らせます。保育者に抱いてもらい「おなかすいたね」「ミルクおいしいね」と声を掛けてもらいながらミルクを飲むと大満足。少し前までミルクを飲んでいた子も「わたしも・・・」といった気持ちで見つめているのかもしれません。

【子どもの姿の読み取り】

生活リズムができて目覚めている時間が増えてきます。また、ミルクを飲む時には、手を添えるなど、自分で飲もうとする意志も出始めます。身近な人の顔や声がかかるようになり、自分から声を出したり、笑ったりして喜ぶ姿が見られます。

【このコラムにおける保育のポイント】

「おいしいね」などと声を掛け応答的な関わりをすることで、身近な人との情緒的な絆が形成されていきます。目覚めている時間を大切に、触れ合い遊びをしたり、あやしたりして心地よく過ごせるように関わりましょう。

【手を伸ばしたら取れたよ ちょっとなめてみようかな】



首がしっかりしてきて、腹ばいの姿勢で遊び、手を伸ばして玩具を取り、なめて確かめています。

【子どもの姿の読み取り】

四肢を盛んに動かすようになります。寝返りや腹ばいで遊んだり、物に触って確かめたりと自ら人や物に向かおうとします。大人が支えての座位の姿勢をとると、ガラガラなどを手に持ち遊ぶようになります。

【このコラムにおける 保育のポイント】

見る、なめる、触れる、握るなどの感触を楽しむような環境を用意することが大切です。また、手を伸ばしつかもうとする気持ちがもてるよう、目の前で玩具を見せて関わったり、保育者が低い姿勢であやしながら一緒に遊んだり、脇から胸にかけてタオルを当てて腹ばいで遊びを楽しんだりできるようにしましょう。腹ばいやお座りなど、姿勢を変えて遊ぶ機会もつくりましょう。

0歳児で経験したい生活や遊び
(7か月～9か月)

共感し合う心地よさをたっぷりと

【あ～よく寝た すっきり】



たっぷり寝て気持ちよい目覚めの時間です。随分お座りが安定してきました。着替えの際にもしっかりと座り、シャツを頭からかぶせてもらい「ばあ」と顔が出るのを喜んだり、保育者に促されて手を通そうとしたりするような姿も出てきました。

【子どもの姿の読み取り】

二回寝のリズムが少しずつでき始め、食事・睡眠・遊びのリズムが整ってきます。

また、人見知りの時期で、泣いたり、保育者の後追いをしたりしますが、大好きな保育者がそばにいて安心して過ごすことができます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

「お着替えしようね」「ごはん食べようね」など、一つ一つの動作に言葉を添えて語り掛けることで、次に期待がもてるようにしましょう。また、起きているときの生活を充実させ、安定した生活リズムをつくりましょう。

【「何だろう？ 試してみよう」と興味を広がって】



うつ伏せの状態遊ぶ時間が増えてきて、玩具に手を伸ばし、つまんだり引っ張ったりして遊んでいます。友達がしていることもよく見ていて、友達に手を伸ばすような姿も見られます。

【子どもの姿の読み取り】

引っ張ったら音が鳴るなどの発見と手応えが感じられると同時に期待が芽生え、繰り返し遊ぶような姿が見られます。手や指を使ったり、口に入れたりして確かめじっくりと遊ぶことでさらに興味を広がり、「もう一回」という意欲につながります。

【このコラムにおける 保育のポイント】

「何だろう？」と興味もてるような玩具を、子どもの低い姿勢から見えやすい場所や、手を伸ばして届くような所に用意しましょう。機嫌よくしているときはそばで見守り、安心して遊べるようにもします。子どもの気持ちになって「〇〇だね」と共感したり、同じ姿勢や視線になって一緒にやってみたりすることで、関わってもらおう喜びを感じられるようにしましょう。

0歳児で経験したい生活や遊び
(10か月～11か月)

自分で食べて、自分の行きたいところに行ける機会を
～生活の主体になれることを保障しましょう～

【もぐもぐ 自分で食べたいな】



赤ちゃんせんべいや果物などは、自分で手に持って口に運んで食べる姿が出てきました。「いただきます」など食事の挨拶を真似てするようになります。

【子どもの姿の読み取り】

食べる量や嗜好には個人差がみられますが、随分歯茎で噛んで食べられるようになるので、子どもの様子を見ながら離乳食を進めていきます。また、保育者に食べさせてもらっていた生活から、こぼしながらも自分で食べようとしています。

「ちょうだい」「どうぞ」など保育者とのやり取りや「いただきます」の真似も楽しむようになります。

【このコラムにおける 保育のポイント】

自分で食べられる喜びが感じられるように、自分で持って食べられる大きさや厚さにするなどの配慮をしたり、「もぐもぐ」「ごっくん」と噛むことや飲み込むことを知らせたりしながら、自分で食べようとする姿を大切にしていきましょう。

【はいはいでの探索 楽しいな】



はいはいでの移動ができるようになり、室内だけでなく広い場所へ出掛けることも楽しい遊びの1つになってきました。

【子どもの姿の読み取り】

はいはいで移動できるようになり、いろいろな場所を探索したり、平坦でない段差や斜面にも挑戦したりするようになります。また、壁面に飾ってある絵や写真など、目新しいものを見つけて興味をもち、見たり、触ろうとしたりします。つかまり立ちもするようになり、転倒するなど危険なことも増えます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

保育者に声を掛けてもらうことで、行ってみたい気持ちが膨らみます。探索しながら、「あれ？何かな」と手を伸ばしてみたり、ものを触ったり、五感を使って楽しめる環境を整えましょう。また、自分から行ってみたいと思えるような段差や斜面など抵抗のある環境も整えましょう。

0歳児で経験したい生活や遊び
(1歳～1歳3か月)

「自分で 自分も」の思いを
膨らませられる環境を

【自分で食べるよ】



自分でコップを持って飲んだり、手づかみで食べたりと、生活の場面において自分でしようとする姿が出てきました。

【子どもの姿の読み取り】

毎日の繰り返しの中で少し見通しができてきて、「ごはんの時間」と分かるとテーブルに集まってきます。食事の内容も幼児食に移行していきます。また、手づかみで食べつつ、自分でコップを持って飲んだり、スプーンを持って食べたりしたい時期です。

【このコラムにおける 保育のポイント】

次第に好き嫌いも出てきますが、根気よく付き合しましょう。食事の時はスプーンを使って食べる経験をする中で、道具を使うことへの認識を育てていきましょう。また、おかわりが欲しい時に表情や身振りなどで表す姿を受け止め「おかわりほしいの?」「今あげるからね」と言葉で伝えるようにしましょう。

【何だろう?面白そう!】



つかまり立ちができるようになり、手押し車風の玩具を支えにしながら探索することを楽しむ姿が見られています。

【子どもの姿の読み取り】

立つことが増え、視界が変わる楽しさや行きたいと思う所へ移動できる嬉しさから、今まで以上にいろいろな場所を探索します。体を動かす喜びを感じながら自分の世界を広げています。

【このコラムにおける 保育のポイント】

自分の体を使って“こう動かすとこうなるのか”を確かめている時期です。その中で自ら発見する楽しさは、歩き始めた子どもたちにとって何ものにも代えがたいものです。子どもの“何だろう”“面白そう”という思いが膨らむような環境を整えましょう。子どもの発見や遊びの楽しさを共感し、大人とゆっくり関わることを大切にしましょう。

0歳児で経験したい生活や遊び
(1歳4か月～1歳6か月)

目線を共有し、
言葉にならない思いを受け止めて

【いや 自分でするの！】



着替えの場面においても保育者が手を貸そうとすると“自分でやりたい”と主張することが増えてきました。「自分で脱げたね」と認めてもらえると、満足そうな表情を見せています。

【子どもの姿の読み取り】

自分でしたい思いがますます強くなっていく時期です。うまくできないこともあります。やってもらえばかりでは納得がいかなくなります。やってもらっても、やっぱり自分でやりたくて何度も挑戦します。

【このコラムにおける 保育のポイント】

うまくできない姿を見ると、ついつい手伝ってしまいたくなることがありますが、自分のことを自分でしたい気持ちが膨らんでいく大切な時期です。失敗しながらも自分でできるようになるためには時間が必要であることを理解し、見守りましょう。

【「見つけた」 ぶらぶら散歩 楽しいな！】



トンネルの中を歩いて探索しています。歩行が安定してきて、靴を履いて散歩に出掛けることも楽しみになってきました。

【子どもの姿の読み取り】

歩くようになってきた子どもたちは行動範囲が広がります。散歩に出掛けると、道に落ちている葉っぱや木の実、虫などを「何か」とじっと見たり、拾ったりして自然に対する興味を広げていきます。また、坂を登ったり、トンネルをくぐったりと探索を楽しんだり「待って待って」と追い掛けられたりすることを喜ぶ子どもたちです。

【このコラムにおける 保育のポイント】

でこぼこ道や坂など、安全で変化のある場所での散歩や、園庭での探索遊びなど、戸外での探索をたっぷり保障しましょう。そして、子どもたちの興味や感動を見逃さずに共感的な言葉を返していきましょう。

参考資料 【0歳児にふさわしい遊びの例】

○周りの物を見たり聞いたりする

- ・美しく明るい色彩のものを見る
- ・音の出る玩具を振って見せたり語りかけたり、歌ったりする

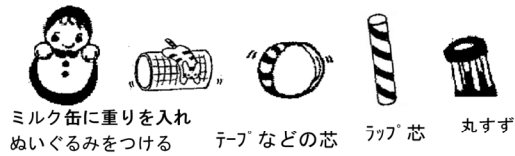
吊り玩具



○物にかかわって感触を楽しむ

- ・触ったり、なめたりする

起き上がりこぼし・ころがる物



にぎるもの・音が出るもの



布・人形



○触っていじって試して遊ぶ

- ・触って感触を味わう
- ・つまんだり、引っ張ったり、出したりする
- ・回したり、触って音を鳴らしたりする

○指先を使った遊びを楽しむ

- (子どもが関わることで変化する玩具を好む)
- ・握ったり、打ち合わせたりして遊ぶ
- ・物を出し入れしたり、落としたりする
- ・ボールを転がして遊ぶ

いじって遊ぶ玩具・出したり入れたりする玩具



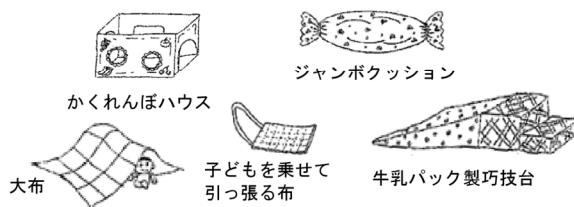
○全身を使って遊ぶ

- ・押し歩いたり、引っ張り歩いたりする
- ・トンネルを出入りしたり、窓で「ばあ」をしたりする

引く、押す遊具



大きな手作り遊具



○人とふれあう

- ・見つめあったり語りかけたりする
- ・あやしあそび

ふれあい遊び

- ・大根漬け
- ・ぞうきん
- ・ザリガニチョッキン
- ・いっぽんばしこちょこちょ
- ・きゅうりができた
- ・おすわりやす
- ・バスにのって

期／月		2か月～3か月
期の特徴		人間らしい土台（食・睡眠・排泄・愛情）をつくる時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜の区別がつくようになり、2時間くらい続けて起きるようになる。 ・首がすわり、仰向けで左右対称の姿勢をとったり、手をかざしたり、口元にもっていつたりする。腹ばいになると頭を上げようとする。 ・空腹やオムツが濡れると泣いたり、あやされると微笑み、「ウクン」「ウグウグ」などの声を出したりする。 ・身近な人の声分かり、音のする方向を見たり、目の前のものを動かすと追視したりする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・よく眠り、よく飲み、機嫌よく過ごす。 ・仰向けや腹ばい、縦抱きなどの姿勢で、頭をしっかりと保持したり手足を動かしたりする。 ・あやされると笑ったり、声を出したり、体全体を動かしたりして、先生からの関わりを喜ぶ。 ・見る、聞く、触れるなどの感覚を働かせる。
経験する内容	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつ交換や着替え、顔拭きなど、体を清潔にしてもらい、心地よさを感じる。 ・先生に抱かれ安心して哺乳したり、眠ったりする。
	身近な人と気持ちが通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌のよい時に外気にふれる心地よさを感じる。 ・先生に関わってもらい、手足の曲げ伸ばしをしたり、うつ伏せの姿勢をとったりする。 ・あやされて笑ったり、泣いたり、むずがったりして、快・不快を知らせる。
	身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみのある声に反応したり、音の出るもの、動くものを目で追ったりする。 ・仰向けの姿勢で手を動かして遊んだり、触れたものを握ろうとしたりする。

〈保育のポイント〉

- ☆疾病への抵抗力が弱いので異常を早く発見し、保健的な対応を行い、環境（室温・換気・採光・湿度・寝具など）を整える。SIDS（乳幼児突然死症候群）には細心の注意を払う。（呼吸・顔色・姿勢の記録）
- ☆夏はクーラーや扇風機を上手く使い、体力の消耗を防ぐ。沐浴をすることで皮膚を清潔に保ち、肌トラブルを防ぐ。また沐浴後は水分補給をする。冬は乾燥し感染症が流行しやすくなるので加湿に気を付ける。下痢、嘔吐の際は脱水症状を起こしやすいので水分補給を行う。
- ☆「お腹すいたね」「オムツ濡れたね」など語り掛け受け止めることを大切にし、一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たせるようにする。
- ☆一人一人の子どもの健康状態を把握し、異常の変化に早く気付けるよう保育者間の連携を密にする。
- ☆授乳時は安心して哺乳できるよう哺乳量を考慮し、微笑み掛けるなど穏やかな雰囲気です。授乳後はげっぷをさせ、吐乳を防ぐ。
- 自分の意思的な力で生活を始めることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続性のある応答的な関わりが子どもの人格形成の基礎づくり、人との信頼関係を形成するのに重要であることを認識する。
- 感覚の働きが豊かになるよう、やわらかい光や外気、快い音色などを見る・聞く・触れるための環境を整える。

〈家庭との連携〉

- ・1年間のクラスの方針を知らせ、保育の中で大切にしたいことを伝える。
- ・子どもの24時間の生活が分かるよう、連絡ノートを活用して、睡眠、授乳、便、機嫌、体調の変化などについて保護者と伝え合う。（年間通じて）
- ・育児に対する不安や戸惑いを受け止め、共に子育てを進められるよう保護者との温かい関係をつくる。

期／月		4か月～6か月
期の特徴		人間らしい土台（食・睡眠・排泄・愛情）をつくる時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・眠っている時と目覚めている時とがはっきり分かれ、睡眠が安定してくる。 ・仰向けの姿勢で手と手、足と足を合わせたり、寝返りをしたりするようになる。 ・腹ばいになると手で体を支え胸まで上げようとしたり、支え座りができるようになったりする。 ・離乳食を食べ始める。 ・物を取ろうとして手を伸ばしたり、口にもっていったりする。 ・快、不快の表出がはっきりとし、「アー」「ウー」と声を出したり、知っている人に自分から笑い掛けたりする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・目覚めと睡眠などのリズムをつけ、機嫌よく過ごす。 ・乳汁以外の味やスプーンで離乳食を食べることに慣れる。 ・喃語を受け止めてもらったり、体全体で喜びを表したり、笑ったりして、機嫌よく過ごす。 ・仰向けや腹ばい、支え座りの姿勢で遊ぶことを喜ぶ。
経験する内容	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく眠ったり、目覚めたりする。 ・乳汁以外の味やスプーンで飲むことに慣れる。
	身近な人と気持ちを通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・徐々にペースト状の形状の食品に慣れる。 ・腹ばいや寝返りなど自ら姿勢を変えたり、支え座りの姿勢で手を使って遊んだりする。 ・身近な人が分かり、見て笑ったり親しみや安心感をもったりする。
	身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい時に手足をばたばたさせたり、声を出したりして思いや要求を表す。 ・周囲の物に関心をもち、手を伸ばして触れようとする。また、手にとった物を振ったりなめたりする。

〈保育のポイント〉

- ☆常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常を早く発見し適切に対応するとともに、健康・発育状態を把握する。ウイルス性感染症が重症化しないよう加湿・換気に気を付ける。
- ☆夏は沐浴やシャワーで汗を流し、涼しく過ごせるように、冬は床暖房などで腹ばいでも暖かく活動できるようにする。
- ☆食欲、睡眠、排泄など生理的欲求を満ち、安心して機嫌よく過ごせるように一人一人の生活リズムを大切に過ごす。
- ☆自分で動いたり、何でも口に入れ始めるので、寝返って落ちないようにしたり、小さな口に入るような危険につながるものを周囲に置かないようにしたりする。
- ☆離乳食は、1さじから始め、便、体調、咀嚼の様子を見ながら無理のないように進める。
- 目覚めた時は穏やかに話し掛けるなど「目覚め」を快いものにしていく。目覚めている時は抱いたりあやしたりして人に対する親しみや周囲のものに関心をもてるよう働き掛ける。
- 手や足を十分に動かし玩具をつかんだり、なめたりなど感覚を豊かに働かせる遊びが十分にできるようにする。
- 玩具であやしたり言葉を掛けたりして、遊びの中で無理なく、様々な姿勢をとれるようにする。
- 話し掛ける、体に触れる、あやすなどスキンシップを十分にとり喃語を受けとめながら発声を引き出す。

〈家庭との連携〉

- ・離乳食は、一人一人の状態に合わせ、進め方や大切にしたいことを共有しながら進める。
- ・自分から周囲の物に対する興味や人に対する関心など新しい世界に気持ちを寄せていく時期であり、1対1の応答的な関わりが大切なことを伝える。

期／月		7か月～9か月
期の特徴		「なんだろう？」と周囲への興味が広がる時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・二回寝のリズムが少しずつでき始め、眠って遊んで機嫌よく過ごす。 ・腹ばいから旋回したり後ろに下がったり、ずりばいや四つばいで動いてみようとしたりする。また、一人で座れるようになり、座った姿勢で両手が使えるようになる。 ・離乳食の段階が進み、少しずつ舌を動かして食べるようになる。 ・手指の機能が発達し、いろいろな物をつかんだり、持ち替えたりしたりして遊ぶようになる。 ・機嫌のよい時には盛んに喃語を発する。 ・“いないいないばあ”や、あやしてもらったりすることを喜ぶようになる。 ・見知らぬ人には泣いたり、顔を見比べたりするようになる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食の食感や味覚に慣れ、食べようとする意欲が育つ。 ・身の回りにある物や人に気持ちを向け、体を動かす。 ・甘えや不安を受け止めてもらい、先生が好きになる。
経験する内容	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度決まった時間に眠り、機嫌よく目覚める。 ・先生に食べさせてもらうことを喜び、いろいろな食材や味覚に慣れる。 ・お座りで遊んだり、寝返りやはいはいなどを動かしたりすることを楽しむ。
	身近な人と気持ちが通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達のすることを、興味をもって見たり、真似たりする。 ・盛んに喃語を発し、先生に関わってもらうことを喜ぶ。
	身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から親しみのある人と初めて見る人を見比べ、体や表情で感情を表す。 ・触れ合い遊びや遊び歌を喜び、期待する。 ・玩具をなめたり、触れたり、引っ張ったり、打ちついたりする。

〈保育のポイント〉

- ☆体の状態を細かく観察し、疾病や異常を早く発見し、健康に過ごせるようにする。
- ☆一人一人の子どものペースを尊重しながら、食事・睡眠・遊びなどの生活リズムを整えていく。
- ☆食品の種類や調理形態に配慮し、食べようとする意欲が育つよう焦らずに離乳食を進める。食べることに楽しい時間となるようにゆったり関わる。
- ☆人見知り、不安、甘えなどの気持ちを見極め、安心できるように共感したり受けとめたりし、人への愛着心や親しみがもてるようにする。
- ☆段差や家具などの鋭角部分や飲み込む危険のある小さな物など安全に十分注意する。
- 今その子が楽しんでいる姿勢や動きを真似たり、視線を合わせたりしながら、自分から動こうとする気持ちを育む。
- はいはいが十分できるような空間や遊びを工夫し、動きたい欲求が満たされるようにする。
- 一人で機嫌よく遊んでいるときには見守ることも大切にする。
- 子どもの思いを汲み取りながら、子どもの耳に心地よい言葉で話し掛ける。
- 自分から玩具を触ったり、期待をもったりできる遊びを繰り返して楽しめるような環境を用意する。

〈家庭との連携〉

- ・連絡ノートを活用して、ミルク・離乳食の摂食状況、便の状態、機嫌、体調の変化などについて保護者と共有する。特に初めての食材を食べるときには家庭と連携し、無理なく離乳を進めるようにする。
- ・腹ばいやはいはい、座位で手を使って遊ぶことなどをたっぴりと経験させるために、育ちを急がないことの大切さを保護者に伝える。

期／月		10か月～11か月
期の特徴		「もう一回」「面白そう」と溢れる気持ちを外界に向ける時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムが安定して一定時間眠り、機嫌よく遊ぶ。 スプーンを持ったり、手づかみで食べようとしたりする。 身近な人や物に興味を示し、自分から近付いて行こうとする。それに伴い、はいはいからつかまり立ち、伝い歩き、ひとり立ちへと運動面が発達してくる。 親指と人差し指で小さな物をつまめるようになってくる。 伝えたい気持ちが育ってきて手差し、指差しが見られ、「ワンワン」「ブーブー」など音声ともののが対応してくる。 身近な保育者との関係の中で、自分の意思や欲求（「マンマ」「バイバイ」「ちょうだい」など）を簡単な動作・表情・声などで伝えようとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> “食べたい” “動きたい” という自分から関わってみようとする気持ちをもつ。 手指を使ったり、はいはいやつかまり立ち、伝い歩きなど体を十分に動かしたりする。 身近な物への関わりや先生とのやり取りの中で、発声したり、身振りで表現したりする。
経験する内容	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> 先生に食べさせてもらって口を開けたり、手を伸ばしてつまんだりして食べる。 噛み切って、歯茎を使い“モグモグ”と噛んで食べる。 平坦な場所ばかりでなく、段差や斜面でもはいはいする。
	身近な人と気持ちが通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちを通わせながら先生とやり取りをする。（「ちょうだい」「はい、どうぞ」など） 様々な音・手触り・動き・形・色などに興味をもち、見たり触れたりする。 先生の声を真似て盛んに声を出したり、機嫌のよい時に盛んに喃語を発したりする。
	身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> 先生のすることに興味をもったり、真似たりすることを楽しむ。 つまむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 見たり、触れたり、探索したりしながら、身の回りのものに好奇心や興味をもつ。

〈保育のポイント〉

- ☆体の状態、機嫌、食欲など日常の状態を観察し、変化が見られたらすぐ対応する。
- ☆保育者の関わりや周りの雰囲気を通して、食べる、眠る、遊ぶなどの生活リズムを整えながら、安定して過ごせるようにする。
- ☆丁寧に離乳食を進め、噛むこと、飲み込むことを知らせながら、こぼしながらも自分で食べようとする姿を大切に受け止める。
- ☆おむつの交換時には、やさしく言葉を掛けて、排泄したことや気持ち悪さを知らせつつ、きれいになった心地よさを感じられるようにする。
- 子どもが自分から行ってみたい、触れてみたいと思うような環境を整え、触れて遊んだり、階段・斜面登り・移動などの運動ができるようにしたりする。
- 子どもの発声や喃語を受け止めて共感しながら、意味ある言葉にして返し、応答する楽しさを味わえるようにする。
- 保育者と楽しい雰囲気の中で遊び、人と関わって遊ぶことへの期待が育つようにする。
- 見たり、触れたり、聞いたり、嗅いだりするなど五感を使った活動を意図的に取り入れる。

〈家庭との連携〉

- 離乳食の回数も増えるので、園での様子を伝えるとともに、家庭での食事の量や様子を知らせてもらい、食事の時間が楽しいものとなるように連携していく。
- つかまり立ちや伝い歩きを始めるので転倒・転落・誤飲などの事故につながらないように家庭と共に気を付けるようにする。

期／月		1歳～1歳3か月
期の特徴		「何だろう?」「もう一回」と溢れる気持ちを外界に向ける時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・歩き方が、初めは両手を前や横にしてバランスを取り、徐々に両手を下ろして安定してくる。 ・はいはいしたり、歩いたりしたりしながら興味ある場所を探索する。 ・こぼしたり、口に詰め込み過ぎたりしながらも、スプーンやフォークを持って食べようしたり、コップを持って飲もうとしたりする。 ・気に入らなかつたり、思い通りにならないと伏せたり、のけぞったり、泣いたりして自分の要求を強く表し通そうとする。 ・「マンマ」「ワンワン」「ブーブー」などの簡単な言葉を使い始め、言葉と物が一致してくる。 ・先生が使っている物に気持ちを向け、それを欲しがり使おうとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな味や調理形態に慣れるとともに、食事に期待をもち、自分で食べる楽しさを感じる。 ・はいはい、つかまり立ち、歩行など全身を使って動き、遊ぶ楽しさを感じる。 ・見たり、聞いたり、触れたりするなどの経験を通して、興味、関心を広げる。 ・気付いたことや要求を指差しや声で伝え、受け止めてもらう喜びを感じる。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみやスプーンを使って自分で食べようとする。 ・“カミカミ”と噛んで食べる。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・はいはい、伝い歩き、立つなど様々な姿勢で遊んだり、探索したりすることを楽しむ。 ・身近な遊具や物などを叩いたりいじったりし、手指を使って遊ぶ。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や周りの友達のしていること、持っている物に興味をもち、真似たり触れてみたりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・知っているものや気付いたこと、要求を指差しや声、動作で伝えようとする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や先生の歌声を見たり、聞いたり仕草や表情を真似たり、体を揺らしたりする。

〈保育のポイント〉

- ☆体調や機嫌など一人一人の様子を見ながら必要に応じて午睡をし、生活リズムを整え、安心して食べたり遊んだりすることができるようにする。
- ☆ゆっくり関わることで甘えたい気持ちや、かまってほしい気持ちを受け止め、自分からしたいと思える生活づくりを心掛ける。
- ☆自分で食べようとする気持ちを大切に、喜んでいろいろな食品が食べられるようにしていく。
- ☆トイレで排泄する友達の様子を見たり、知らせてもらったりして、オマルや便器での排泄に興味をもてるようにする。
- ☆行動範囲が広がるので、安全・清潔に配慮する。
- “何だろう” “面白そう” という期待や、“あった” という喜びなどを感じて探索活動ができるように、遊具や物の配置、高さなど環境を整える。
- 子どもや保育者の行動に言葉を添えてやり取りしたり、話し掛けたりしていき、言葉と行動が一致するようにする。
- 音や動き、形、色、手触りなどの気付きを促し、感覚を豊かにするような環境を構成する。
- 子どもの気付きや要求を保育者が先取りしないように、表出される表現だけではなく指差しに込められた思いや仕草も丁寧に受け止め、伝わった喜びを感じられるようにする。
- 音や動き、ものの形、色、手触りなど感覚の働きを豊かにする環境を整え、子どもの気付きを促す。

〈家庭との連携〉

- ・自分の要求を強く表す子どもへの関わりの難しさに共感しながら、自我の芽生えであることや成長の証であることを伝え、一緒に関わり方を考えていく。
- ・視界が変わる楽しさ、自分が行きたいと思う所へ移動できる面白さなどを子どもの姿を交えながら伝えていき、探索活動の大切さを確かめ合う。
- ・1対1の触れ合いやゆっくりと話し掛けること、思いを汲み取って言葉にすることの大切さを知らせていく。

期／月		1歳4か月～1歳6か月
期の特徴		「いやいや」「自分で」「見て見て」大好きな人との中で自我の芽生えを育む時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・歩行がいっそう安定し、目標を捉えて長い距離を歩く。 ・好奇心が盛んになり、段差をまたいだり階段を上り下りしたりする。 ・自分で食べ物や汁をすくったり、のせたりして、スプーンを使って食べようとする。また、嗜好がはっきりしてくる。 ・自分でしたい思いが出てきて、思いが通らないときには、泣いたり怒ったりする。 ・「マンマ」、「ブーブ」など、一語文を使って伝えようとする。 ・友達のしていることや持っている物にも興味を示し、真似てみたり、自分も同じように使ってみたりする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる先生との関わりや見守りの中で、自分でやりたい思いを受け止めてもらいながら食事や着替えなどをしようとする。 ・自分で体の向きや姿勢を換え、しゃがんだり、上り下りをしたりして全身を動かすことを楽しむ。 ・伝えたい思いを膨らませ、先生とやり取りをする楽しさを感じる。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に言葉掛けてもらったり、友達の様子を見たりしながら、スプーンやフォークを使って楽しく食べる。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる先生の見守りの中で、身の回りの大人や友達に関心もち、関わる。 ・探索を楽しむ中で、上る、下りる、くぐる、押す、引っ張るなど様々な動きをしながら遊ぶ。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・つぶす、転がす、ちぎる、たたくなど、手指を使った遊びを繰り返し楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に絵本を読んでもらう中で、知っているものを言葉で伝えたり、言葉や仕草、表情を真似たりすることを楽しむ。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・先生との関わりの中で、話し掛けてもらうことや自分から言葉を発して共感してもらうことを喜び、やり取りを楽しむ。 ・先生の歌い掛けや音楽を聞いて同じように声に出したり、体を動かしたりする。

〈保育のポイント〉

- ☆甘えや、かまってほしい思いを受け止め、安定して過ごせるようにする。
- ☆食事は食欲や好みに偏りが出やすい時期なので日々の心身の状態を把握し、個人差を十分に受け止めながら、楽しい雰囲気の中で食事をする。
- ☆個々の排泄間隔を把握して誘い掛けていき、トイレで出た時にはおしっこが出たという感覚と言葉を結びつけ、一緒に喜ぶ。間に合わなかった時も気持ち悪さに共感し、個人差に留意して自立を焦らず、ゆったりと関わる。
- ☆自分でやりたい思いを受け止め、見守ったり必要に応じて手伝ったりしながら、自分でできる喜びを感じられるようにして、次への意欲につなげていく。
- 友達に関心が向き、持っている物を欲しがって取り合いになることも増えてくるので、遊びが満足するように環境を工夫したり配慮したりする。

〈家庭との連携〉

- ・叩くことや噛むが増えてくるのは、十分に言葉で表現できないためであることを知らせるとともに、思いに共感することの大切さを知らせる。
- ・指差しや表情、片言などでコミュニケーションを取りながら、子どもの伝えたい思いを膨らませていき、思いが人に伝わる喜びが感じられるような関わり方の大切さを知らせていく。